前に進むための「宝箱」を

1枚の写真が心の支えに

災害に備える⑤

今年に入り全国で大規模な山火事が続き、延焼で自宅を失ってしまうケースも見られます。地震や風水害、大火など、災害からの生活再建には多大な労力や費用、自分自身の心の支えが必要になります。

今回は、そんな今後を支えてくれる大切なモノ、思い出の保管について考えたいと思います。

私は被災地で活動をする中で、土砂や倒壊した家屋の中から、思い出の写真、結婚記念日の時計や指輪、子どもの思い出の品など、さまざまなモノの救出にも携わってきました。

倒壊家屋から見つかった思い出の指輪（上）、思い出の品はまとめて保管（中・下）

もう見つからない、そう思っていた何かが見つかった瞬間、依頼者の顔に浮かぶ表情、「これで前に進めます」という言葉に幾度も出会いました。

そんな経験からお伝えしたいこと、それは、大切なモノ、思い出の品が、たくさんの力を与えてくれるということと。そして、可能であるなら、普段からそれらをしっかり保存しておくということです。

方法はさまざまです。まずは、分かりやすく1カ所にまとめておく。可能であれば2階がいいですし、密閉袋やスーツケースなどにまとめておくのもいいと思います。写真をスキャン、デジタル化してインターネット上に保存しておくのも1つの方法です。最近は「防災ゆうストレージ」のように、初期費用と月々数百円で、段ボール1箱程度のモノを預かるサービスも出てきました。

もちろん、そこまでするのは面倒だと感じるかもしれません。そんな時は家族で楽しみながら、1人1つのモノを持ち寄り宝箱を作る、どこに置くか楽しんで決める。そんな工夫も大切です。

災害は多くを奪っていきます。それでも前に進むための宝箱を、ぜひ作ってみてください。

（特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター　増田 勇希）

ペットの災害対策を考える②

イベントで学んで備えを

動物の愛護と管理を考える⑰

昨年も全国各地で多くの災害が発生した年であり、能登半島地震とその後の豪雨災害、8月には宮崎県で発生した震度6弱の地震に伴い、南海トラフ臨時情報が初めて発表されたほか、今年に入っては各地で林野火災も相次ぎました。日本のどこかで頻繁に災害が発生しており、決して他人事ではありません。

令和6年1月号で「ペットの災害対策を考える」というタイトルで寄稿させていただいた記事では「自分の命を守り、ペットも助かるために同行避難（※）が可能な避難先を調べておきましょう。」と結ばせていただきましたが、ご確認いただけましたでしょうか？

お近くの同行避難ができる避難所は、市町のホームページの他に、広島県のホームページ「避難所・避難場所検索」で確認することができますので、検索してみてください。

また、5月24日（土）には、広島県動物愛護センターで「人とペットのための防災フェスティバル」が開催されます。昨年たくさんの方にご参加いただいた、愛犬と一緒に参加できる「同行避難訓練」や、サンフレッチェ広島アンバサダーの森﨑浩司さんのゲスト出演を予定しています。

昨年度のイベントの様子

ペットとともに安全に避難し、安心して過ごすためには、健康管理（予防注射やノミダニ予防など）、基本的なしつけ（「マテ」「コイ」やケージの中でも静かに過ごせること）、ペット用品の備蓄など、日頃からの心構えと備えが重要です。この機会に一緒に学んでいきましょう。

※同行避難：ペットと避難場所まで避難すること。

（広島県健康福祉局食品生活衛生課）

「人とペットのための防災フェスティバル」の詳細はこちらから

高さによって変わる体感温度

熱中症予防に暑さ指数計を

ひろしま気候変動適応センター

⑱暑さ指数（WBGT）

気象庁によると、今年の夏（6～8月）も全国的に暑いと予報されています。一般的に、5月は快適に過ごせる気温の日が多いものの、熱中症が発生し始める時期でもあります。今年度の熱中症警戒アラートの運用は、4月23日（水）から始まっています。

この熱中症警戒アラートは、暑さ指数（WBGT）が県内観測地点の1カ所以上で翌日・当日の日最高値が33に達すると予測される場合に発表されます。暑さ指数は、人体と外気の熱のやり取りに注目した熱中症の危険度を示す指標で、日本生気象学会によると、28以上では全ての生活活動で熱中症が発生する危険性があるとされています。

暑さ指数を正確に計算（**下表**）するためには湿球、黒球、乾球のある測定装置が必要であり、各地の気象台などでは設置型の大きな装置が使われています。一方、湿度や気温などの条件は場所ごとに異なっており、暑さ指数はそれぞれの場所での計測が望ましいです。例えば、太陽光が当たっている場所では、高さ150cmよりも50cmの方が高温になった地表面の影響を受けやすく、車いす利用者や子どもなどは、立っている大人よりも体感温度が高くなるため、より一層の対策が必要とされています（熱中症予防情報サイト、環境省参照）。また同サイトでは、空調がない体育館において、午後から屋外よりも暑さ指数が高くなった事例が紹介されています。

最近は、小型で簡易な暑さ指数計（**下図**）が販売されており、手軽に暑さ指数を測定することが可能となっています。熱中症予防のために、暑さ指数計を生活に取り入れてみませんか？

（ひろしま気候変動適応センター）

<暑さ指数の算出方法>

①屋外の場合

0.7×湿球温度＋0.2×黒球温度＋0.1×乾球温度

②屋内の場合

0.7×湿球温度＋0.3×黒球温度

※暑さ指数、湿球温度、黒球温度、乾球温度の単位は、摂氏度(℃)

簡易な黒球付き暑さ指数計の例